竹田の町・岡城址を訪ねて

禿　カツ子

十一月二十日、ほんとに楽しい一日でした。寒いのでは？雨が降るのでは？と、今日を迎えるまではとても心配していました。でも今日は、心配したのがウソのような秋日和の上天気に恵まれ、久方ぶりに訪れた竹田の町を懐かしい思いに浸りながらゆったりとした気分で散策出来ました。

それにしても竹田の町の変わりようには驚きました。昔の町のおもかげも、あちこちに残っておりましたが、町全体が何かしらすがすがしい気持ちを持たせる町になっており、大変嬉しくかんじました。

荒城の月で有名な岡城址も、本丸や滝廉太郎の銅像のある二の丸などを中心にした城址だけではなく、新たに発掘された幾つかの城壁や御殿・家老屋敷跡も加わり、その大きく様変わりした様子には、またまたびっくりしました。

史談会々長さんはじめ役員の方々のご労苦に対し、嬉しい気持ちで一杯です。厚く御礼申し上げます。

齢八十一歳次の講演会・市外探訪を楽しみにしています。今後ともよろしくご指導くださいませ。

史談会市外史跡見学会に参加して

光永　佐恵子

歴史ある別府史談会の一員として、皆様とお出会いするご縁ができましたことの喜びを味わせていただき、うれしく思っています。

好転に恵まれ、まわりの山々も、史談会の見学を歓迎するかのごとく、澄み切った空の中、国指定史跡岡城・竹田歴史資料館……見学のため、バスの人となりました。

若い頃、職員旅行で同じ見学地を旅したことがありましたが、今思い出そうとしても、恥ずかしながら、ほんの一部しか心に残っていません。

今日の見学では、竹田市教育委員会文化財課佐伯治先生の、奥深い研究に拠られたご説明に、今まで見えていなかったものがよく見えてきました。

諸所の史跡を学習していきながら、岡城址では、ことに時が昔に戻ったようで、自分が当時の人物としてここに立ち、その時代に生きているかのような錯覚を覚え、石段を、城壁を、また広大な城跡を見ながら一歩一歩大地をふみしめて城址をめぐりました。

「石の花」　作者不詳

―前略―

石語らず　石を以って
旅人黙す　石に語らせ
石動かず　旅人を振り返らせむ
旅人　振り返らず　―中略―
石と人と縁なきか　石に心あるを知る時
人の心の扉は開かれ
石の花も咲く
―後略―

「石の花」という詩を読んだことがありますが、佐伯先生のご説明・ご指導を受けながらこの詩を思いだし、語らない石たちが、何か私たちに語りかけてくれているとの思いに打たれ、真実対話ができたようでした。

見学地に歩を進めるごとに、夫々、私の心にたくさんの事どもが刻み込まれ、大へん稔り多い一日を終えることができました。

別府史談会　市外探訪記

平松　卓

平成十七年十一月二十日（日）晴天のもと、別府史談会では市外探訪（竹田方面）が実施され、会員など三四名が参加、午前八時、新港町花時計前を大型バスで出発した。出発前、永井副会長挨拶に続き、三重野副会長より「西南戦争と豊後のかかわり」について説明を受ける。

一　国指定史跡「岡城」（竹田市竹田二九一二）

竹田に着いて案内者の竹田市教育委員会文化財課佐伯治先生から岡城について概略次のような説明を受ける。

岡城は文禄三年（一五九四）二月、播磨国三木城（兵庫県）から、中川秀成が総勢四千人余で入部。築城にあたり志賀氏の館を仮の住まいとし、急ぎ近世城郭の形を整えた。

本丸は慶長元年（一五九七）に完成、寛文三年（一六六三）には西の丸御殿が造られ、城の中心部分とされていった。岡城は、山城的殿舎（御廟）・平山城的殿舎（本丸、二の丸、三の丸）・平城的殿舎（西の丸）によって構成され、これらが一体となって一城を形成している。これは近世城郭史上特異な城の在りようである。